

成蹊大学

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-1
アドミッションセンター事務局 TEL 0422-37-3533
https://www.seikei.ac.jp/university/



成蹊大学

Seikei University



「共創人材」を育成する多彩な学び 持続可能な社会実現を目指し 26年4月「国際共創学部」を開設



もりゆういち
森雄一 学長

1994年東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退。修士(文学)(東京大学)。成蹊大学文学部教授、同文学部長などを経て、22年4月より現職。

SUMMARY

吉祥寺に全学部を集約したワンキャンパスを擁する成蹊大学は、1906(明治39)年に創立者・中村春二が創設した「成蹊園」を起源とします。その後、岩崎小弥太と今村繁三の支援・協力を得て、1912(明治45)年に「成蹊実務学校」を開設。旧制成蹊高等学校の時代を経て、現在に至っています。創立以来受け継がれてきた自由でリベラルな校風のもと、「丸の内ビジネス研修」や「三菱海外ビジネス研修」など、企業と連携した実践的な人材育成プログラムを展開。次の100年を見据えた今日、「共創人材」の育成を教育の柱に掲げ、2026年4月には「文理の複眼思考」を基盤に他者との共創を探究する新学部「国際共創学部」を開設しています。

01

創立時から受け継がれる理念 ESD実現のため文理を超えた教育

成蹊大学は1912年、大正自由教育の旗手である創立者の中村春二が、三菱財閥の4代目総帥の岩崎小弥太と銀行家・今村繁三の支援のもと創設した成蹊実務学校を前身としています。「個性の尊重」「品性の陶冶」「勤労の実践」を建学の精神とし、小中高大の児童・生徒・学生が一堂に通う成蹊学園としての強みを生かし、今日に至るまで個性と自由を尊重した人間教育を行ってきました。とりわけ、成蹊学園では100年の歴史を持つ「成蹊気象観測所」に代表されるように、「本物に触れる教育」を教育の原点として位置づけています。本物に触れる体験を重ねることで問題意識を科学的思考に高め、持続可能な未来社会の実現に貢献できる人材の育成をいち早く目指しているのです。

2018年にはサステナビリティー教育研究センター(ESDセンター)を開設し、持続可能な開発のための教育(ESD)を学園ぐるみで展開していますが、2026年4月には新たに「国際共創学部」「国際共創学科」を開設しました。

高度化・複雑化した現代の社会課題の解決、そして持続可能な社会の実現のためには、従来の文系・理系の枠組みを超えた複眼的思考を備え、他者との「共創」によってあらゆる活動を推進することのできる人材が求められています。国際共創学部では、創立以来ESDに取り組んできた成蹊大学が、次の100年を見据える中で作りあげた学部といえます。

日本および世界の地域の文化や諸課題を知り、人の営みそのものを学ぶ「国際日本学専攻」と、自然環境や地理といった人と社会を取り巻く環

方・ビジネスモデルなど多様な切り口から「グローバルマインド」を醸成し、将来的な人格形成やキャリア形成に繋がる貴重な経験を積むことができます。

全学共通の教育プログラムも充実しています。2026年度からは、学部横断型の「成蹊Global Study Program (GSP)」がスタートしました。GSPは選抜された1学年90名の学習意欲と英語力の高い学生が学部の枠を超えて切磋琢磨しながら学び合うプログラムで、実践的な英語力の強化、英語による専門科目、GSP専用の少人数発信型のゼミの設置、手厚い経済的サポートなどでグローバル化時代に貢献できるスキルや積極性を育むことを目的としています。例えば、GSP専用ゼミでは、2年次前期にはディスカッション、2年次後期にはプレゼンテーションといったアウトプット活動を通して、英語による質問力・発信力を高めます。3年次のゼミではプロジェクト(協働学習)を行い、提案力や問題解決力を身につけていきます。また、留学についても授業料減免制度や奨学金給付制度の増額などの経済的なサポートが充実しています。なお、「副専攻制度」「成蹊Global Study Program」の修了証はデジタル証明書の一つであるオープンバッジで発行されます。

03

個々に向き合う充実の キャリア支援体制

就職活動を成功に導くための秘訣は、充実した学生生活を送るとともに、早めの準備を行うことです。どのような準備をすればいいのかわからない、不安を抱える学生を最大限支援するのが「キャリア支援センター」です。将来のキャリアについて1年次から幅広く相談することができ、3年次からはエント

02

時代のニーズに応え 新たな価値を創造する人材を育成

実務学校を源流にもつ成蹊大学は、ますます複雑化していく社会での諸問題を実践解決できる人材の養成に取り組んでいます。そのためには、キャンパス内だけでなく、学外での学びも必要です。成蹊大学には、産業界と連携したキャリア支援プログラムが数多くあります。

その一つが、2013年度から続く選抜制の産学連携人材育成プログラム「丸の内ビジネス研修(MBT・Mitsubishi Business Training)」です。文理融合のプロジェクトで、3年次生および大学院1年次生を対象に、ビジネスの中心地である丸の内、三菱グループを中心とする企業と共に、異なる考え方や専門分野への相互理解を深めます。4月の学内準備研修から始まり、丸の内研修、インターンシップ研修、10~11月のインターンシップ成果発表会・丸の内成果発表会まで、約7カ月かけて課題解決に取り組みます。

一方、三菱海外ビジネス研修(MBT・Mitsubishi Overseas Business Training)は、グローバル意識を持ち、将来海外で活躍するビジョンを持った学生を対象に実施されるプログラムです。希望者は3年次の夏期休業期間中の約1週間にわたり、協力企業へ派遣され、現地スタッフや駐在員との交流、ディスカッションなどを通して、文化・習慣・宗教・働き

方・ビジネスモデルなど多様な切り口から「グローバルマインド」を醸成し、将来的な人格形成やキャリア形成に繋がる貴重な経験を積むことができます。

全学共通の教育プログラムも充実しています。2026年度からは、学部横断型の「成蹊Global Study Program (GSP)」がスタートしました。GSPは選抜された1学年90名の学習意欲と英語力の高い学生が学部の枠を超えて切磋琢磨しながら学び合うプログラムで、実践的な英語力の強化、英語による専門科目、GSP専用の少人数発信型のゼミの設置、手厚い経済的サポートなどでグローバル化時代に貢献できるスキルや積極性を育むことを目的としています。

例えば、GSP専用ゼミでは、2年次前期にはディスカッション、2年次後期にはプレゼンテーションといったアウトプット活動を通して、英語による質問力・発信力を高めます。3年次のゼミではプロジェクト(協働学習)を行い、提案力や問題解決力を身につけていきます。また、留学についても授業料減免制度や奨学金給付制度の増額などの経済的なサポートが充実しています。なお、「副専攻制度」「成蹊Global Study Program」の修了証はデジタル証明書の一つであるオープンバッジで発行されます。

成蹊大学の2025年度の就職率は97・8%。就職希望者の約6割が企業規模従業員1000名以上の大企業に就職しており、経済動向にかかわらず高い実績を残しています。

「成蹊大学は全学部が一つのキャンパスにあり、文系理系の枠にとらわれず広く学ぶことができます。キャリア支援には特に力を入れているため、将来が心配という方も安心して学ぶことができます。活気ある吉祥寺の街と魅力に富んだキャンパスで4年間充実した時を過ごし、大いに成長なされるよう教職員一同全力で支援します。ご入学をお待ちしています」と、森雄一学長は受験生にエールを送っています。